

社会貢献したいという思いを持ち続け 身近なところから始めてください

生涯学習開発財団理事長 松田妙子

去る2月18日、大阪の追手門学院大学経済学部「追大・社会人ゼミ〜人生経験から語る経済社会学〜」の研究報告に招かれ、ご挨拶をいたしました。

社会人学生は様々な職業の方で、年齢も79歳から35歳、男7名・女2名と多様でした。研究発表も、農業、グローバル経済、宗教、障がいと社会、着物のリメイク事業など様々でした。大学からは、社会人学生の方々に「激励」してほしいと言われましたが、発表前に皆様とお話ししたところ、彼らから「学ぶことの楽しさ」、そしてそれを「社会に活かしていきたい」との強い思いを受け取り、「激励はもう必要ない、十分にやる気があるから」とお伝えしました。そして、今回学んだことを、身近なところ

ろからでいいので、社会とのつながりを持ち続け、ぜひ世の中に還元してほしいと挨拶を結びました。

社会人ゼミを立ち上げられた経済学部准教授の李義昭先生は、「本講座は社会人の生涯学習の場であるとともに、大学の学生と一緒に経済学部の講義やゼミに参加する場。単なる公開講座ではなく、ともに学び目的を共有しながら世代間の交流を図り、互いが刺激し合う場としていきたい」とお話されておりました。

先月号の活動紹介でも書いたように、世の中の考え方が変化している様子が、このような場所に行くこととひしひしと感じられます。

LL会員の社会起業大学が行った「社会貢献意識及び学びに関する実施調査」(2012年2月2日から3月1日まで15歳以上の男女2万5千人を対象に実施)によると、

社会に貢献したい、または人の役に立つことをしたい？
 ・社会貢献したいと思う 90・3%
 ・そうは思わない 9・7%
 という結果がでているそうです。

学生、社会人を問わず、仕事かプライベートかを問わず、社会とのかかわりを持ち続け、その芽がますます世の中を活性化し、社会に貢献する人たちが世の中を占めていくことを願っています。

自分の身近なところから始めることが大切です。



研究発表をされた追手門学院大学経済学部社会人ゼミの方々や指導教授たちと